

AI 技術文明時代の倫理的・社会的基盤の解明と教育プログラムの開発
 - デジタル・オントロジー (DO) の構築と人倫 (Human-Ethics) の世界発信

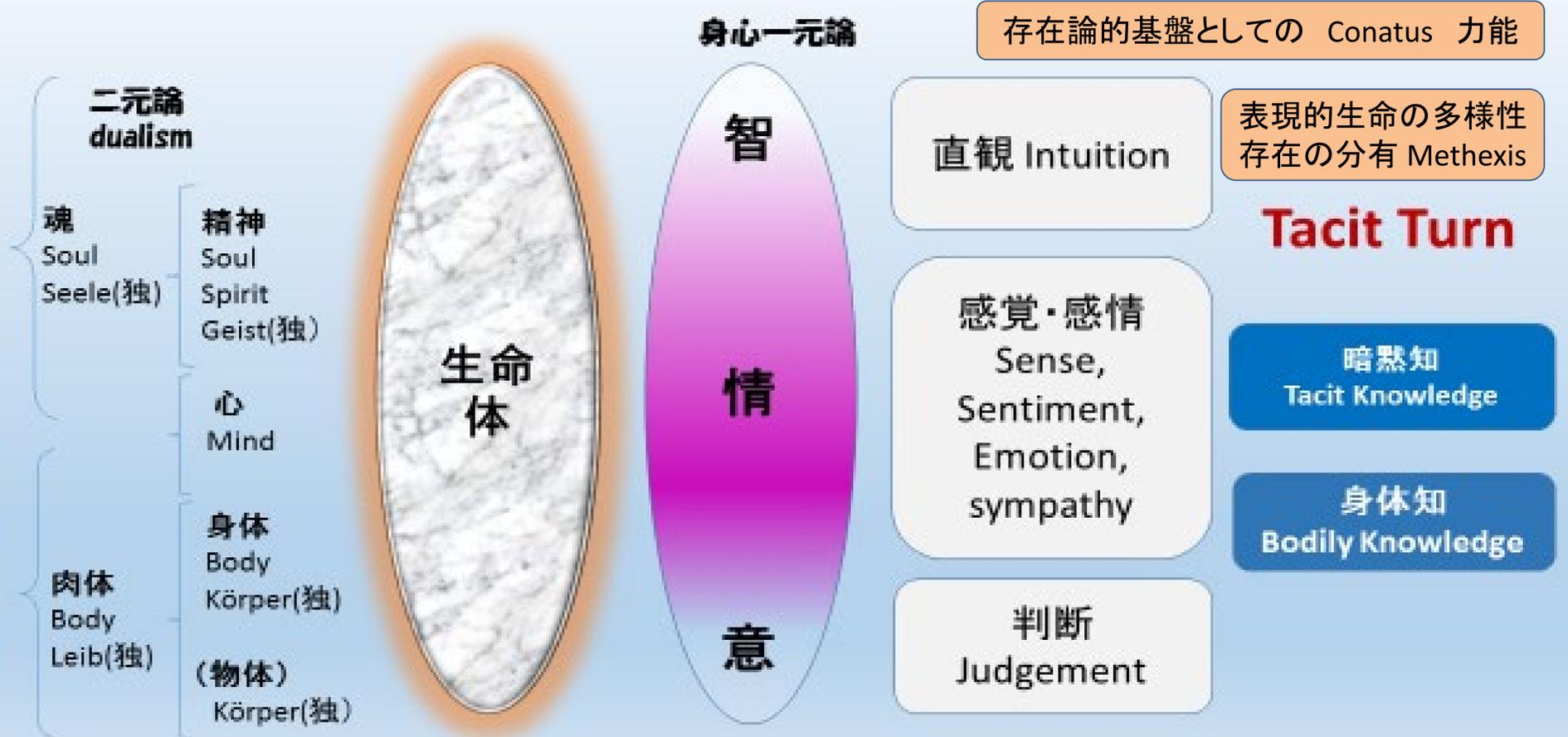
課題 1 技術文明創造の担い手としての人間そのものの変容に関する
 分析と、倫理的・社会的基盤の解明

- 成果
- ① 時空意識の変容と智情意、身体への影響の解明
 - 進化と熟達の結節点としての人間を存在論から分析
 - ② 状況倫理・文脈倫理としての人倫 (Human-Ethics) の思想的解明

課題 2 力能の再定義と教育刷新プログラムの開発

- 成果
- ① 情報集蔵体としての集合知性と力能および教養概念の再検討
 - ② 相関性・傾向性に基づく科学方法論の拡大に伴う学術分野への影響と
 問題点の抽出 - 普遍と特殊を往還する因果的思考への注目

デジタル・オントロジーによる力能概念の再定義



学際的アプローチ 哲学・法学・精神医学・教育学・人類学

これまでの実績(抜粋)

- ① 歴史人類学会・国際会議「Den Menschen Neu Denken 人間再考」で講演 “Mensch-sein/ -bleiben im Zeitalter der AI Era”, 2019年2月15日, Free University of Berlin, Germany
- ② 国際会議「AI技術文明時代の人間像」2018年12月15,16日(於 国際高等研究所)企画・開催
- ③ 教育哲学会ラウンドテーブル「AI 技術文明時代に求められる教養を探る—法・倫理・教育にとっての技術革新と人間社会」の企画実施、2018年9月8日、於 山梨学院大学
- ④ 総務省学術雑誌『情報通信政策研究』に論文「AI時代の技術文明と人間社会 -AI技術と人間の未来」特別寄稿、2018年12月28日刊行
- ⑤ 教育思想史学会『近代教育フォーラム』に論文「新たな技術文明のための人間性とその力能 - 離散的存在論 (Digital Ontology: DO) の可能性」を掲載、2018年9月刊行